

山崎 香葉子さん（島根県松江市出身）
2015 年度 3 次隊 青年海外協力隊
派遣国：モンゴル 職種：青少年活動
2017 年 4 月 16 日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

青少年に日本語教える

広がる青空、馬が駆け抜ける大草原、自然のあふれる国モンゴル。日本の 4 倍もの国土を持つこの国の人口は日本の 40 分の 1 だ。冬はマイナス 40 度、夏は 35 度になる。気温差が 75 度もあるのだ。風邪をひけば、病院で「肉を食べなさい」と言



折り紙で作ったカエルで遊ぶ子ども。彼らの変化が私のやりがいになっている

われ、冬は近所の人から馬肉を 1 ㎏もらう。厳しい冬を過ごすためには「肉」が必要不可欠である。私が青年海外協力隊としてモンゴルへ来て約 1 年。肉食生活、道端を歩く牛たちにもようやく慣れてきた。

首都ウランバートルから南に車で 1 時間離れたトゥブ県ゾーンモド市で青少年活動を行っている。主な活動は 6～18 歳を対象に、日本語教室で日本語を教えることだ。青少年活動とは「子どもの成長をサポートする」活動である。

日本語教室にいるものの、私の目的は子どもたちを日本へ行かせることではない。日本語をツールに、外国人である私と日々を過ごすことで、子どもたちに「柔軟性」を身に付けてほしいと考えている。

自分たちの考える「当たり前」が「当たり前」ではないこと、将来には大きく広い可能性があるということを伝えたい。実際、活動を始めて 1 年、子どもたちの変化が目に見えてきた。

私の話すモンゴル語を聞き取ろうとする姿勢、世界に対する興味関心。今の私は子どもたちの変化を見ることが「やりがい」となっている。モンゴルで過ごせる時間も残り 1 年。目を輝かせて日本語を学ぶ子どもたちに、私は全力を注ぎたい。